幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　４７号
令和６年　３月　１日

みやま市幸若舞保存会と オンライン座談会開催

（電子版号外１月２２日付で既報）

さる一月一二日夜、越前町生涯学習センターとみやま市幸若舞舞堂をインターネットで結んで当会とみやま市幸若舞保存会との間でオンライン座談会が開催されました。当会からは児玉会長代理はじめ六名の会員が、みやま市からは松尾会長をはじめ七名の会員が参加しました。

事業受託者の富士通担当者の進行により、出演者紹介、地域の概要説明、会の活動状況、幸若舞に関する歴史観、今後の課題や地域連携について話し合いが行われました。その要旨は次の通りです。

①里づくり会では、幸若舞の復興は長期的課題として、主として町民への啓発活動として、ＰＲパンフやＤＶＤなどの作成、研究会の開催、出前授業、現代版幸若舞の公演、他地域との交流会に取り組んでいる。

②みやま市保存会では、毎年一月に行われる天満神社への幸若舞奉納が一大行事で、隔月に寄合を行うとともに、一〇月頃から、翌年の演目や出演者などを決めて練習を開始する。また幸若舞の四二演目のうち、所蔵している台本が一五番で、そのうち九番が現在舞うことができる。「敦盛」は四年がかりで復元した。

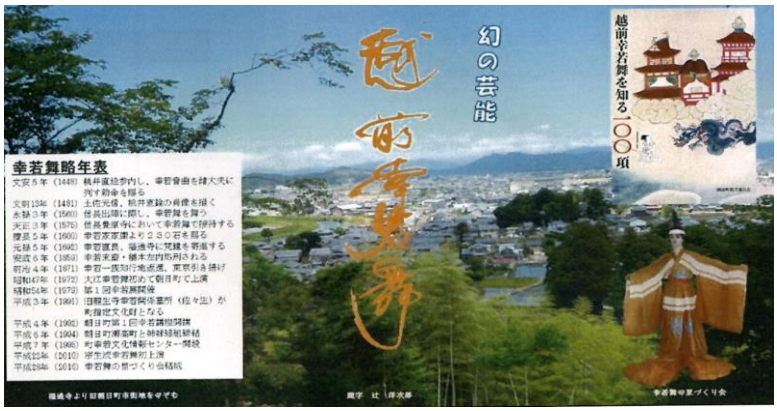
③越前幸若舞は、限られた幸若一族の伝承で、民衆の前で披露されることはなく、明治維新の変革により武士とともに消滅し、途中再興の機会もなく現在に至っている。

④大江幸若舞は、江戸期から村の有力高持百姓であった松尾氏一族が継承を担い、毎年天満神社への奉納も行ってきた。明治維新により、柳川藩の支援はなくなったが、担い手は健在であり、地域で継承された。それでも一時衰退したが、明治末期の国学者・高野辰之らにより、伝統芸能の発掘見直しが行われ東京公演が行われるなど継承の灯は消えなかった。戦後は、一部音曲の復元にも成功し、昭和五一年には国の文化財に指定された。

⑤越前町・みやま市ともに、少子高齢化の波を受けており、幸若舞継承保存の「熱」をいかに若い世代に伝えていくかが課題である。

みやま市

幸若舞デジタル資料館を開館
越前幸若舞を紹介



幸若舞の継承地福岡県みやま市（越前町と姉妹縁組）では、このたび幸若舞に関するデジタル資料館を開館しました。その一角に越前幸若舞を紹介したコーナーがあり、掲載した資料などが展示されております。

この資料館と前頁座談会記録ＣＤは、事務局で保管しておりますので、閲覧ご希望の方はお申し出下さい。なおこれらＣＤは、五月の総会時に上映する予定です。

越前町内に於ける応神天皇ゆかりの歴史遺産
劍神社・牛頭天王社（八坂神社）・経ヶ塚古墳

1月26日幸若歴史愛好会開催

幸若歴史愛好会一月例会は、一月二六日幸若文化情報センターで開催されました。越前町内にある応神天皇ゆかりの歴史遺産について、青木講師より講義を受けました。その要旨は次のとおりである。

①劍神社の祭神の変遷には諸説がある。忍熊皇子、仲哀天皇、日本武尊、応神天皇、宗像三神、劍彦尊、素戔男尊などであるが、いずれも応神天皇縁者である。応神天皇は、王位継承をめぐって争った異腹兄である忍熊皇子を神功皇后の仲介により赦免し、劍神社に祀った。（敦賀気比神宮も同様である）

②牛頭天王社は、応神天皇などが、牛頭天王を信仰し、祇園大明神として造営した。日本海とペルシャ廻国の統領であった。

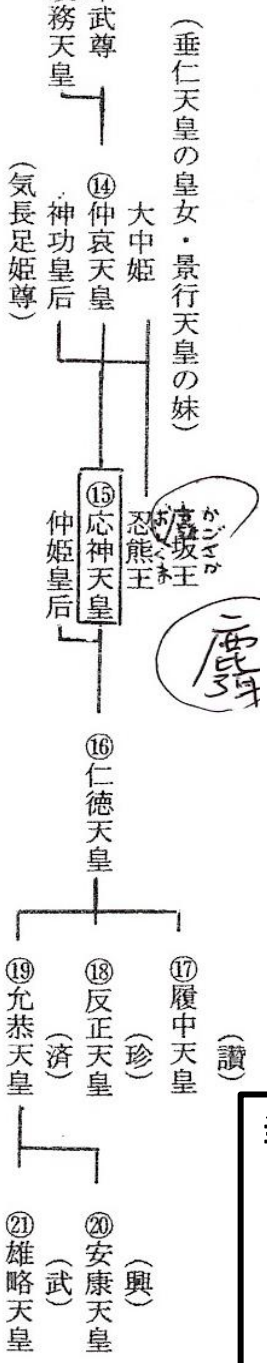
③応神天皇の時代前後は、朝鮮半島では高句麗や百済などの争いが絶えず、敗者は日本に渡来し、大陸文化をもたらした。

④大陸文化は敦賀を経由して、京都にもたらされるとともに、北陸方面への物資は、舟運により越前海岸諸湊に荷揚げされた。

これが、織田や朝日を通り、福井方面に運ばれた。劍神社には、海上交通の守護神の宗像神が祀られている。（もともと近代以前の物資運搬は　舟運がメーンであるが、当時の木ノ芽峠ルートは険しい山道であった。）明治以後においても、国道整備にあたって、このルートは忌避され、海岸ルートが選択されている。

⑤敦賀（気比神宮）、織田劍神社、牛頭「天王」社、経ヶ塚古墳はこの運搬ルート上にあり、当地に一定の富と文化の蓄積をもたらした。

⑥明治政府は牛頭「天王」社の名称を不快としたため、八坂神社に改称されたものである。



当面の主な予定

幸若歴史愛好会　3月22日（金）午後1時30分～　町図書館
（青木講師最終講義）

あすわ左内まつり　4月　6日（土）午前9時30分～
福井・左内公園

佐々生墓地清掃　4月14日（日）午前9時

令和6年度総会　5月12日（日）
午前10時～　生涯学習センター

幸若舞　継承活動に思う

松田　美喜子

宗生流剣詩舞道会朝日子供教室が舞を習得し披露してまいりました。

前会長沢崎様より依頼を受け、二〇一一年第一回幸若舞発表会を開催しましたところ、好評を頂き、あちこちから出演要請があり、毎年四～五回の舞台を務めてまいりました。

当初一五名ほどいた子供達は、だんだん舞の技術も向上し、成長してまいりました。毎年、発表会、体験教室など開催し、父兄の方々とチラシ作りや広報活動を重ね、会員を増やしてまいりました。舞台ごとに、厳粛な雰囲気の中、その姿は自信に溢れ、当時の武将の生き様や心情を舞で表現することに、喜びを感じ、凛としたその姿に感動を覚えたものでした。

コロナ感染のパンデミックを迎え、高校生以下の子供達が出入り禁止となり、四年間練習・活動ができなくなり、その間、高校・大学進学により会員の減少が続きました。現在は七名となり舞うことができない演目が出てくる次第です。

発祥の地である西田中。白山神社の秋祭りには毎年披露しておりますが、境内に居て遊びに興じている子供達は、幸若舞を見て興味を示す子は殆どなく、一抹の寂しさを感じます。

小学校、中学校の出前授業に行き、体験してもらいますが、会員増加には繋がらない現実であります。時代と共に、父兄の関心も変化してきており、堅苦しく敷居が高いと感ずるのだろうと思います。

舞の指導を行っている私も、宗生流の活動を通して、大人の会員の指導、県内外でのイベント、文協の活動により、大変忙しい中子供の成長と共に、衣装の補修・管理にも時間がとられ、後継者を育て次世代に伝えていく難しさが深刻になってまいりました。皆様の考えやご協力を頂きたいと思います。

現代版幸若舞会員大募集！！

お問い合わせは松田会員まで　090-6275-2770

幸若舞の歴史 映像で

越前町朝日　住民の会、紙芝居をDVDに

全編20分「もっと親しんで」

越前町朝日地区発祥の幸能（幸若舞）について研究、発信する住民グループ「幸若舞の風づくり会」は、幸若舞の風除から養成までの歴史をまとめた紙芝居をDVD化した。地元の小中学校での出前授業や地域の会合などで上映し、幸若舞についてより広く発信していく。（吉田憲）

幸若舞は鎌倉時代の曲舞を源流に、室町時代に同町で生まれた桃井直記（幼名幸若丸）が創始した芸能。織田信長をはじめとする戦国武将に武士道教育の舞曲として愛好された。

紙芝居は計16枚。昨年他界した能楽博前会長が絵を担当し、会員たちがシナリオを考えた。約3年かけ2022年に完成。これまでに町内の小中学校で読み聞かせや展示用として使ってきた。

桃井家一族は同町西田中に住居を構え、幸若舞を全国に広めた「吾妻時代」は幕府の公式芸能「式楽」にもなったが、徐々に衰退していった。紙芝居ではこういった歴史を解説するとともに、同町に残る幸若舞に関する史跡なども伝えている。

DVDは同会が幸若舞のさらなる普及を図ろうと制作し、昨年9月に完成した。紙芝居の内容をそのまま落とし込み、ナレーションと字幕を付けている。全体で20分ほどの映像で、前編と後編に分け視聴することもできる。

同会の担当者によると、視聴した住民からは「目と耳で楽しめて、幸若舞の歴史がより理解できるようになった」と好評を得ているという。児玉忠会長代理（76）は「DVDを通で、幸若舞の歴史に親しんでもらえたら」と期待をふくめている。

06.01.25

福井新聞令和6年1月25日記事